

平成29年度事業報告書

1 博物館の普及啓発に関する事業

(1) 月刊誌「博物館研究」の発行

博物館関係者を主な対象に、博物館の振興に必要な情報を提供し、その普及を図ることを目的に、博物館の総合研究情報誌として、月刊誌「博物館研究」を発行している。内容は、博物館の取り組むべき特集テーマに関する論文・事例、調査研究成果、博物館に関する投稿論文、海外博物館情報、各博物館の所蔵品、全国博物館の展覧会、教育普及活動、国の文化・文化財・社会教育施設に関する施策等である。企画編集委員によるテーマ・執筆者の選定を行うとともに、掲載論文等の査読を行っている。

平成29年度の発行状況は次のとおりである。発行部数は、各号2,000部、ページ数は60頁で会員館等には無料で配布し、会員館等以外の者には実費相当額の1冊1,296円で配布した。

＜各号の特集のテーマ＞

4月号「平成27年度博物館館園数関連統計」

5月号「平成28年度新館紹介・施設概要」

6月号「平成28年度研究協議会から」

7月号「史跡整備と博物館」

8月号「博物館が復興に果たす役割」

9月号「博物館の映像利用の今」

10月号「保存業務と学芸員」

11月号「漁撈と博物館」

12月号「博物館と外部資金」

1月号「博物館における多言語対応」

2月号「博物館と友の会」

3月号「第65回全国博物館大会報告」

(2) 第65回全国博物館大会の開催

館種や設置者の異なる全国の博物館関係者が一堂に会し、博物館の直面する課題である博物館の地域社会とのかかわり、魅力的な展示や教育普及活動の在り方、効果的な広報や情報の受発信等に関する最近の調査研究の内容や各博物館での取組等について情報交換・意見交換・討議を行い、博物館の充実・振興を図ることを目的に、全国博物館大会を実施している。

平成29年度（第65回）全国博物館大会を次のとおり行った。

主 催 公益財団法人日本博物館協会

共 催 大分県、大分県教育委員会、大分市、大分市教育委員会、
大分県博物館協議会、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

後援 文部科学省
 協賛 株式会社丹青社、株式会社トータルメディア開発研究所、株式会社乃村工藝社、
 東京海上日動火災保険株式会社、三和酒類株式会社
 会期 平成29年11月29日(水)・30日(木)・12月1日(金)
 会場 iichiko 総合文化センター (iichiko 音の泉ホール等)、大分県立美術館
 参加者 400名
 大会テーマ 「今、博物館に求められていること～持続可能な社会における役割～」
 表彰 顕彰：永年勤続者 74名、博物館事業功績 1名、寄附・寄贈表彰 5名
 棚橋賞：2名 博物館活動奨励賞：2名
 基調講演 「持続可能な社会に向けた博物館の役割」
 講師 佐藤 禎一 (公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団理事長)
 全国博物館フォーラム

司会	日本博物館協会	専務理事	半田 昌之
講師	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長		八木 和広
講師	文化庁文化財部	美術学芸課長	圓入 由美
講師	西宮市貝類館	顧問	山西 良平
講師	京都国立博物館	館長	佐々木丞平

シンポジウム 「博物館における人材育成～学校教育との連携を例に～」

コーディネーター	東京大学大学院教育学研究科 教授	秋田 喜代美
パネリスト	学校法人共立女子学園 理事長	御手洗 康
	埼玉県教育委員会 教育長	小松 弥生
	国立科学博物館博物館等連携推進センター長	小川 義和
	大分県教育庁 義務教育課長	米持 武彦
事例発表	大分大学教育学部 准教授	藤井 康子
	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団企画監	木村 典之
	大分県立美術館 学芸企画課 主幹学芸員	榎本 寿紀

分科会 I 「芸術文化による観光振興・地域づくり」

司会	特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT 代表理事	山出 淳也
講師	由布院温泉観光協会 会長	桑野 和泉
講師	株式会社マリーンパレス 代表取締役社長	橋本 均
講師	九州旅客鉄道株式会社 常務取締役	後藤 靖子
講師	大分香りの博物館 館長	江崎 一子

分科会 2 「求められる新たな学芸員像」

司会	九州国立博物館 館長	島谷 弘幸
講師	九州大学大学院人文科学研究院 教授	後小路 雅弘
講師	大分合同新聞社文化科学部 部長	安東 公綱
講師	大分市美術館 館長	菅 章
講師	大分県立美術館 館長	新見 隆

分科会3 「文化財の防災及び災害復旧対策」

司会	京都大学理学研究科	教授	竹村 惠二
講師	熊本大学大学院先端科学研究部環境科学部門教授	伊東 龍一	
講師	別府大学史学・文化財学科	教授	飯沼 賢司
講師	大分県立先哲史料館	館長	大津 祐司
講師	大分県立歴史博物館	学芸調査課長	菅野 剛宏

決議起草委員会

第65回全国博物館大会決議の検討

全体会議 第65回全国博物館大会決議を決定した（別記）

博物館視察

◆Aコース（大分・豊後大野コース）（バス）

大分市歴史資料館、朝倉文夫記念館、原尻の滝、大分市美術館

◆Bコース（別府・宇佐コース）（バス）

大分香りの博物館、安心院葡萄酒工房、宇佐神宮、大分県立歴史博物館

展示会 多言語おもてなしタグ 展示ケース ガラス比較 納入事例紹介
スポットライト展示 免震デモ（卓上）パネル4枚
文教と公共の施設フェア2018のご案内 ブラックライトで光る蛍光、蓄光トナー
美術印刷サンプル ミュージアムグッズサンプル 複製画サンプル
博物館資料情報横断検索の新サービス MAPPS Gateway

情報交換会

第65回全国博物館大会決議

私たちは、公益財団法人日本博物館協会主催のもと、大分県、大分県教育委員会、大分県博物館協議会、大分市、大分市教育委員会及び公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団の共催、並びに文部科学省の後援を得て、第65回全国博物館大会を、平成29年11月29日・30日・12月1日の3日間にわたり開催し、全国各地から約400名が参加して熱心な討議を行った。

今日、博物館は、館種・設置者の如何を問わず、文化財・博物館資料の保存と活用から地域振興への貢献等、生涯学習の中核施設として多様な役割が期待されている。

本大会では、学校教育との連携をはじめ、地域振興への貢献、学芸員の在り方、文化財防災等、多岐にわたる議論が展開され、多様な社会の期待に応えるために、博物館は基本的機能の充実を図りつつ、地域社会との連携、大規模災害への対応、国際化等を推進する必要がある、そのためには、それぞれの博物館の努力はもとより、厳しい運営環境や博物館制度の改善が必要であることを確認した。

ここに、「今、博物館に求められていること -持続可能な社会における役割-」という本大会のテーマを実効あるものとするため、第65回全国博物館大会の名において次のように決議する。

記

- 1 各博物館は、日本博物館協会の『対話と連携の博物館』（平成13年）及び『博物館の望ましい姿』（平成15年）の両調査報告書を行動指針とし、平成24（2012）年に同協会が制定した「博物館の原則」と「博物館関係者の行動規範」、及び平成27（2015）年にユネスコが採択した「ミュージアムと収蔵品の保存活用、その多様性と社会における役割に関する勧告」の趣旨を十分に理解し、その社会的役割を果たすために、博物館の公益性及び信頼性の確保に努め、お互いの連携強化を図り、総力を挙げて行動する。
- 2 平成31（2019）年9月に開催される第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会を、日本文化の国際発信とともに、博物館の社会的役割を示し、その持続的発展を図る契機と捉え、博物館界を挙げて連携し、京都大会の成功に向け努力する。また、各博物館は、国際会議や研修等へ積極的に参加し人材育成を図るとともに、資料情報等の多言語化の推進やデータベース化等による国の内外への情報発信力強化に取り組む。これらの取組の着実な進展に向け、国を始めとする関係機関・団体等に対し支援・協力を強く要請する。
- 3 各博物館は、大規模災害で被災した博物館及び被災文化財・博物館資料の復興を支援する。また、日本博物館協会は、地域及び全国的な文化財防災ネットワークと連携して博物館全体の防災体制の強化に努めるとともに、各博物館との連携の下に、東日本大震災等で被災した施設等の復興支援を継続的に実施する。
- 4 日本博物館協会は、前回（平成20年）の博物館法改正で検討事項とされた『博物館登録制度』等について、「博物館登録制度の在り方に関する調査研究委員会」の審議結果を踏まえ、今後の博物館法の在り方について速やかに検討し、その結果をまとめ、国を始めとする関係機関・団体等との連携の下に、博物館の充実・振興に資する新たな法制度の構築を目指して行動する。
- 5 各博物館は、社会からの期待に応えるために不可欠な、文化財・博物館資料等の保存環境の整備、学芸員等の必要な人材確保や育成等、その基本的機能の確保・充実に向けて努力する。また、日本博物館協会は、公私立博物館に対する支援の充実を国を始めとする関係機関・団体等に強く働きかけるとともに、博物館の運営形態が多様化するなかで、博物館制度の検討に際しては、経費・人員の削減や合理化・効率化のみが優先されることなく、その目的・役割が確実に達成できる制度設計となるよう国を始めとする関係機関・団体等に求めていく。

以上

平成29年12月1日

第65回全国博物館大会

(3) 全国博物館長会議の開催

博物館運営の中核である館長を対象に、博物館の運営の在り方、経営基盤の強化、効果的な事業展開、地域のニーズ・地域に対する役割等の博物館をめぐる基本的問題について、館長の理解を深め、博物館の一層の普及を図るとともに、館長のリーダーシップに対する意識、能力の向上を目的に、全国博物館長会議を文部科学省と共催で開催している。

平成29年度（第24回）全国博物館長会議を次のとおり行った。

主 催	文部科学省・公益財団法人日本博物館協会	
開催期日	平成29年7月12日（水）	
会 場	文部科学省 講堂	
参加者	380名	
行政説明	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長	八木 和広
	文化庁文化財部美術学芸課長	圓入 由美
事業説明	公益財団法人日本博物館協会専務理事	半田 昌之
基調講演	「地域に生きる博物館」	
	公益財団法人大原美術館前理事長	大原 謙一郎
事例発表	「マネジメントによる博物館機能強化」	
	鶴岡市加茂水族館館長	奥泉 和也
	国立科学博物館人類史研究グループ長	海部 陽介
パネルディスカッション	「未来を見据えた博物館の取組」	
	パネリスト	
	古代オリエント博物館研究部長	津村 眞輝子
	江戸東京博物館たてももの園担当課長	新田 太郎
	和歌山県立博物館館長	伊藤 史朗
	京都国立博物館副館長	栗原 祐司
	コーディネーター	
	公益財団法人日本博物館協会専務理事	半田 昌之

情報交換会

2 博物館に対する支援に関する事業

(1) 博物館利用支援機器の支給

体の不自由な人、高齢者、子育て中の人等に対し、これらの人々の文化的、知的要求に応え、豊かな生活を支援し、もって博物館利用の促進を図るため、日本宝くじ協会の助成を得て博物館利用を支援する機器の支給を行っている。

平成29年度は、ベビーカー100台、車いす120台を支給した。

平成29年度の支給先博物館は、次のとおりである。

(ベビーカー寄贈先博物館一覧)

配布台数 100台

有島記念館、札幌市青少年科学館、北海道開拓の村、北海道博物館、むかわ町立穂別博物館、岩手県立博物館野村胡堂・あらえびす記念館、盛岡市遺跡の学び館、盛岡市先人記念館、仙台市科学館、仙台市博物館、宮城県美術館、アクアワールド茨城県大洗水族館（アクアワールド・大洗）、本場結城紬染織資料館（手緒里）、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、栃木県子ども総合科学館、栃木県立博物館、アーツ前橋、群馬県立自然史博物館、富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館、国立歴史民俗博物館、千葉市科学館、千葉市立郷土博物館、茂原市立美術館・郷土資料館、多摩六都科学館、東京国立近代美術館工芸館、東京都美術館、東武博物館、静岡市美術館、下田海中水族館、浜松市博物館、ふじのくに地球環境史ミュージアム、ベルナル・ビュフェ美術館、愛知県陶磁美術館、安城市歴史博物館、徳川美術館、豊橋市美術博物館、名古屋港水族館、日本モンキーセンター、碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館、岐阜県博物館、岐阜市歴史博物館、神奈川県立近代美術館葉山、神奈川県立生命の星・地球博物館、川崎市立日本民家園、横浜みなと博物館、新潟県立近代美術館、高岡市美術館、富山県水墨美術館、富山市科学博物館、富山市郷土博物館、のとじま臨海公園水族館、福井市美術館、福井総合植物園「プラントピア朝日」、軽井沢町歴史民俗資料館、大津市歴史博物館、滋賀県立安土城考古博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、彦根城博物館、京都国立近代美術館、京都市青少年科学センター、大阪市立自然史博物館、大阪歴史博物館、明石市立文化博物館、神戸海洋博物館、神戸市立森林植物園、神戸市立須磨海浜水族園、神戸市立青少年科学館（バンドー神戸青少年科学館）、神戸市立博物館、播磨町郷土資料館、兵庫県立歴史博物館、和歌山県立自然博物館、米子市美術館、島根県立古代出雲歴史博物館、島根県立三瓶自然館、島根県立美術館、広島県立みよし風土記の丘 広島県立歴史民俗資料館、広島市交通科学館（ヌマジ交通ミュージアム）、ひろしま美術館、広島平和記念資料館、筆の里工房、防府市青少年科学館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、愛媛県美術館、新居浜市広瀬歴史記念館、高知県立美術館、北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）、北九州市立美術館、九州歴史資料館、八女市岩戸山歴史文化交流館、武雄市図書館・歴史資料館、御船町恐竜博物館、大分県立歴史博物館、宮崎県立西都原考古博物館、みやざき歴史文化館、出水市ツル博物館クレインパークいずみ、鹿児島県立博物館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、かごしま水族館（いおワールド）、沖縄県立博物館・美術館、（100館）

(車いす寄贈先博物館一覧)

配布台数 120台

札幌芸術の森美術館、北海道大学総合博物館、北海道立近代美術館、盛岡市子ども科学館、石巻文化センター、仙台市縄文の森広場、宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）、秋田県立近代美術館、茨城県近代美術館、茨城県立歴史館、常磐大学博物館学博物館、徳川ミュージアム、龍ヶ崎市歴史民俗博物館、さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館-、栃木県なかがわ水遊園、栃木県立美術館、群馬県立土屋文明記念文学館、館林市立資料館、行田市郷土博物館、埼玉県立川の博物館、我孫子市鳥の博物館、鴨川シーワールド、木更津市郷土博物館 金のすず、佐倉市立美術館、袖ヶ浦市郷土博物館、千葉県立現代産業科学館、千葉県立中央博物館、千葉県立房総のむら、船橋市郷土資料館、科学技術館、国立科学博物館、国立新美術館、五島美術館、東京国立博物館、東京富士美術館、東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館、日本科学未来館、羽村市郷土博物館、三菱一号館美術館、港

区立港郷土資料館、伊豆シャボテン動物公園、静岡県立美術館、島田市博物館、東海大学海洋科学博物館、東海大学自然史博物館、トヨタ産業技術記念館、豊田市美術館、名古屋城、半田市立博物館、内藤記念くすり博物館、光ミュージアム、飛騨民俗村 飛騨の里、大磯町郷土資料館、川崎市市民ミュージアム、相模原市立博物館、新江ノ島水族館、彫刻の森美術館、明治大学平和教育登戸研究所資料館、上越市立総合博物館、長岡市立科学博物館、新潟県立歴史博物館、新潟市美術館、魚津水族博物館（魚津水族館）、富山市民俗民芸村、氷見市立博物館、佐久市立近代美術館、田中新左エ門・辨蔵記念館、長野県立歴史館、長野市立博物館、皇學館大学佐川記念神道博物館、鳥羽水族館、長浜市長浜城歴史博物館、京都市動物園、京都鉄道博物館、向日市文化資料館、大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）、国立国際美術館、造幣博物館、高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）、中之島香雪美術館、篠山市立歴史美術館、兵庫県立考古博物館、兵庫県立人と自然の博物館、安堵町歴史民俗資料館、奈良国立博物館、法隆寺大宝蔵殿、高野山霊宝館、鳥取県立博物館、足立美術館、出雲文化伝承館、つやま自然のふしぎ館（津山科学教育博物館）、呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）、頼山陽史跡資料館、松陰神社宝物殿至誠館、山口県立萩美術館・浦上記念館、徳島県立近代美術館、徳島県立博物館、金刀比羅宮博物館、高松市美術館、高松市歴史資料館、愛媛県総合科学博物館、佐賀県立名護屋城博物館、中富記念くすり博物館、祐徳博物館、長崎県美術館、長崎純心大学博物館、玉名市立歴史博物館ころろピア、大分市歴史資料館、宮崎県総合博物館、宮崎県立美術館、

（107館）

（2）博物館総合保険

博物館利用者の安全の確保と博物館の財政的軽減を図るため、博物館総合保険に関するとりまとめ事務を行った。

平成29年度博物館来館者傷害保険及び施設賠償責任保険の加入館は、156館であった。

<平成29年度の支給状況>

- I 賠償責任保険制度（施設賠償責任保険）： 1件
- II 見舞金制度（レジャー・サービス施設費用保険）： 4件

N O	事故内容	被保険者	賠償/見舞金
1	階段を踏み外し転倒 頭をぶつけた。	女性	見舞金
2	トンネルの途中で急に立ち上がり頭をぶつけた。	男性（4歳）	見舞金
3	階段をふみはずし転倒 階段が滑りやすい状態になっており、博物館側で用意したスリッパも滑りやすい物だった。	男性（40代）	賠償
4	滑って転倒、左頬を切創した。	男性（3歳）	見舞金
5	目を離した隙に遊具に入り込もうとしたお孫さんを捕まえようとして、遊具に接触、左足首を骨折した。	女性（60代）	見舞金

3 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業

(1) 博物館登録制度の在り方に関する調査研究

平成26年度から実施した「博物館登録制度の在り方に関する調査研究委員会」の成果をまとめ平成28年度に刊行した調査研究報告書に基づき、今後の登録制度の在り方、博物館法の改正に向けた議論を進めるために、平成29年7月に「21世紀の博物館・美術館のあるべき姿—博物館法の改正に向けて」と題する提言を発出した日本学術会議との連携を図り、同会議との共催によるシンポジウムを企画・開催した。また、今後の議論の進展に向けて、2015年のユネスコ勧告について、1960年の勧告も含めて冊子として印刷し、全国博物館長会議等にて配付するとともに、ICOM 京都大会運営委員会との連携を図りつつ、今後に向けた体制の整備に努めた。

(2) 多言語化対応

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催をはじめ、観光立国としての充実が進められるなかで、博物館においても外国人観光客をはじめとする海外の利用者に対する多言語化の進展による文化面からの情報発信が求められていることを踏まえ、我が国の博物館の多言語化の現状を把握するため、会員博物館を対象にアンケート調査を実施し、基礎データの収集・整理を行っている。3月に行われた、研究協議会“観光と博物館”において中間報告を行った。

現在、データの整理を進め30年度館長会議へ向けて報告書を作成する予定である。

(3) 出版物等による情報の提供

博物館関係者に対し、博物館運営や活動に関する新たな企画・立案や他の博物館等との連携事業の推進を図るため、博物館にかかわる調査研究成果や博物館に関する法令・基準、博物館専門職員名簿等の博物館運営や活動に関する基礎的な資料及び情報を提供する事業を行っている。

平成29年度の出版物等による情報の提供等は次のとおりである。

- ・「全国博物館総覧」の編集
- ・「平成29年度版全国博物館園職員録」の作成・頒布
- ・既出版図書・「博物館研究」バックナンバーの頒布

4 博物館関係者に対する資質向上に関する事業

(1) 研究協議会等

博物館において、購入資料の選定、資料の整理・保存、調査研究、展示、教育普及活動等の諸事業を企画・実施しているのは学芸員等であり、博物館活動の充実を図る上で、優れた学芸員等の専門家を育成し確保することは極めて重要である。このため、博物館の学芸員等が専門的諸課題やその改善の方策等についてお互いの実践経験や知識を基に研究協議を行い、更にその資質を向上させることを目的に研究協議会を行っている。研究協議会は、原則として、テーマを定めて2日間にわたり全国3か所において行うこととしているが、平成29年度は喫緊の課題として、①博物館登録制度、②防災対策、③観光施策への対応を取り上げることとした。①の「博物館登録制度の在り方」については、同種の課題について検討をしてきた日本学術会議が平成29年7

月に「21世紀の博物館・美術館のあるべき姿—博物館法の改正に向けて」と題する提言を発出したことを受けて、同会議との共催によるシンポジウムを開催した。従って、当協会主催の研究協議会は2回開催となった。

シンポジウム

「これからの博物館のあるべき姿～博物館法をはじめとする関連法等の改正に向けて～」

主催： 日本学術会議史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会
公益財団法人日本博物館協会

協力： 東京文化財研究所

開催期日： 平成30年1月20日（水）

会場： 東京文化財研究所 地下セミナー室

参加者： 120名

内容：

報告 1 「提言の発出に至るまでの経緯と今後の課題」

東京大学大学院教育学研究科 特任教授 小佐野 重利

報告 2 「提言「21世紀の博物館・美術館のあるべき姿—博物館法の改正へ向けて」の内容と今後の課題」

東北大学高度教養教育・学生支援機構教授 芳賀 満

報告 3 「博物館登録制度の在り方に関する調査研究報告書から見えてくるもの」

西宮市貝類館 顧問 山西 良平

報告 4 「平成20年の博物館法改正後の展開と今後の展望」

京都国立博物館 副館長 栗原 裕司

総合討論 司会 半田 昌之（日本博物館協会専務理事）

報告者4名

明治大学文学部 教授 矢島 國雄

名古屋大学大学院文学研究科 教授 栗田 秀法

研究協議会

<テーマ1 博物館と防災>

協力 静岡県立美術館

会場 静岡県立美術館 講堂

開催期日 平成30年2月8日（木）・9日（金）

内容 基調報告1「博物館と危機管理」

講師 豊田市美術館 館長 村田 眞宏

事例報告1「東日本大震災から7年—被災した博物館から救出された博物館資料再生の現状と課題—」

講師 岩手県立博物館 首席専門学芸員 赤沼 英男

事例報告 2 「神奈川県博物館協会の総合防災計画—現状と課題—」

講師 神奈川県立歴史博物館主任学芸員 角田 拓朗

事例報告 3 「千葉県における博物館資料救済システムづくり」

講師 千葉県立現代産業科学館主任上席研究員 上野 純司

事例報告 4 「静岡県における博物館の防災連携体制」

講師 静岡県立美術館 上席学芸員 新田建史

基調報告 2 「災害と博物館～文化財防災ネットについて～」

講師 京都造形大学 名誉教授 内田俊秀

全体討議

コーディネーター：日本博物館協会専務理事 半田 昌之

他各発表者

施設見学

(希望者のみ) 静岡県立美術館

情報交換会

参加者数 55名

<テーマ2 観光と博物館—文化財の保存と活用>

協力 京都国立近代美術館

会場 京都国立近代美術館 講堂

開催期日 平成30年3月8日(木)・9日(金)

内容 基調報告「観光と博物館 今 求められていること
— ICOM京都大会を見据えて」

講師 京都国立博物館副館長 館長 栗原 祐司

事例報告 1 「国際観光都市 京都の博物館の連携と取組」

講師 細見美術館 館長 細見 良行

事例報告 2 「文化財の保存と活用のモデルを目指して『世界遺産・二条城』」

講師 元離宮二条城事務所 所長 北村 信幸

事例報告 3 「松本まるごと博物館の取組み」

講師 松本市立博物館 館長 木下 守

事例報告 4 「地域文化財の保存と活用」

講師 文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ研究官

村上 裕道

事例報告 5 「当館の多言語化への取組と課題」

講師 京都国立近代美術館 主任研究員 平井 章一

事例報告 6 「外国人から見た日本の博物館の多言語化」

講師 大阪大学大学院文学研究科美学研究室 関 スラ

全体討議

司会 日本博物館協会 専務理事 半田 昌之

報告者 4名 (木下守、村上裕道、平井 章一、関スラ)

元離宮二条城事務所・京都市美術館担当係長 中谷 至宏

平成29年度研究協議全参加者数(合計) 162名

(2) 美術品梱包輸送技能取得士認定試験

博物館や美術館の美術品の取扱い、特に梱包や輸送については、指導的立場にあった高い技能と知識を有する者が、定年等により退職され、必要な技能や知識の継承が困難になっている。

他方、国・公立博物館をはじめとして広く競争入札の導入に伴い美術品の梱包・輸送に関し、知識や経験のない業者が落札し、貴重な美術品が毀損されるような事態になることが懸念されるようになった。このような事態を防止するとともに、後継者を養成し、美術品取扱いの知識や技能の維持・向上を図るため、当協会は、平成20年度に「美術品取扱い技術等にかかわる委員会」を設置し、検討に着手した。その結果を踏まえ「美術品梱包・輸送技能」に関する資格制度(1級・2級・3級)を創設し、平成23年度に3級試験の試行、平成24年度に3級試験の本格実施及び2級試験の試行、平成25年度には3級・2級試験の本格実施及び1級試験の試行、平成26年度からは3級・2級・1級試験を本格実施している。

受験希望者の増加に伴い、平成28年度から3級試験の実施日を増やし、1級受験日を8月に変更した。平成29年度はこれに加えて、再受験者について2級では面接試験合格者の面接免除、3級では筆記試験合格者の筆記免除の制度を設けるとともに、2級試験の受験希望者の増加に対応して、2日目に2級の面接免除者の試験を実施した

なお、当認定試験の参考とするため、「博物館資料取扱いガイドブック—文化財、美術品等梱包・輸送の手引き—」を編集し、株式会社ぎょうせいから出版している。平成28年度にはその改訂版を出版した。

<3級認定試験>

試験日 平成30年2月17日(土)および2月18日(日)

試験時間 10時00分から15時00分

試験場所 東京国立博物館 平成館(小講堂、第1会議室～第4会議室)、黒田記念館

受験者 90名(うち欠席 4名) 合格者 60名 不合格者 30名

試験科目 実技試験(額装、陶磁器又は掛物)、筆記試験(筆記免除 13名)

<2級認定試験>

試験日 平成30年2月17日(土)および2月18日(日)

試験時間 9時45分から17時30分

試験場所 東京国立博物館 平成館(小講堂、第1会議室～第4会議室)、黒田記念館

受験者 44名(うち欠席 1名) 合格者 32名 不合格者 12名

試験科目 実技試験(茶道具・陶磁器)、筆記試験、面接試験(面接免除 11名)

< 1 級認定試験 >

試験日 平成 29 年 8 月 5 日(土)
試験時間 10 時 00 分から 17 時 30 分
試験場所 東京国立博物館 平成館 (第 2 会議室～第 4 会議室)
受験者 10 名 合格者 2 名 不合格者 8 名
試験科目 筆記試験、口頭試問

(3) 顕彰事業

1) 博物館功労者表彰

博物館功労者顕彰規程第 2 条に基づき、博物館活動に貢献のあった博物館関係者に対し顕彰を行っている。(同条第 1 号：日本博物館協会又は博物館に 20 年以上にわたり永年勤続し、他の模範となる者、第 2 号：協会又は博物館の事業に対し、顕著な功績のあった者、第 3 号：協会又は博物館の防火、防災等に挺身し、功労のあった者、第 4 号：協会又は博物館に対し、多額の金品を寄附した者。)平成 29 年度は、第 1 号の該当者 74 名、第 2 号の該当者 1 名、第 4 号の該当者 5 名に対し顕彰を行った。

2) 棚橋賞、博物館活動奨励賞

我が国における博物館学研究の先駆者である故棚橋源太郎氏の功績を記念し、月刊誌「博物館研究」の優秀論文の著者に対し「棚橋賞」を、優れた実践報告に「博物館活動奨励賞」を贈呈しており、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員会での審議の結果、平成 29 年度の棚橋賞、博物館活動奨励賞の受賞者は次のとおりであった。

棚橋賞

受賞者：貝塚健氏 (石橋財団ブリヂストン美術館)
受賞論考：「雑感：博物館法をめぐる議論をめぐって」
受賞者：山内宏泰氏 (リアス・アーク美術館)
受賞論考：「博物館が復興に果たす役割」

博物館活動奨励賞

受賞者：野本康太氏、奥山清市氏、坂本昇氏 (伊丹市昆虫館)
受賞論考：「郵便局と博物館—地域連携の事例と可能性」
受賞者：福田和浩氏 (八尾市立しおんじやま古墳学習館)
受賞論考：「八尾市立しおんじやま古墳学習館の取り組み
—巨大古墳のある小さなミュージアムの奮闘記録」

顕彰等は、平成 29 年 11 月 29 日の第 65 回全国博物館大会において表彰が行われた。

5 博物館の国際交流に関する事業

(1) 「国際博物館の日」に関する事業

国際博物館会議 (ICOM) が世界規模で行う「国際博物館の日」と連動して、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールし、博物館の普及を図るため、5月18日の「国際博物館の日」を中心に約1月間にわたり、文部科学省の後援を得て、全国的に、無料入館などの記念行事を展開した。平成29年度のテーマは、「歴史と向き合う博物館—博物館が語るものは—」(Museums and Contested Histories: Saying the Unspeakable in Museums) あった。

日本博物館協会は、7社から賛助金の協力を得て、「国際博物館の日」のポスターを作製し、会員館及び関係機関等に広く配布し、活動の広がりを強くアピールした。

平成29年度の実施状況は、次のとおりである。

1) 「国際博物館の日」ポスター及びチラシの作製配布

作成配付部数 各2,000部

配布先 各博物館、教育委員会、博物館関係団体

2) 各博物館の実施状況

ア. 無料入館や入館料割引 113館

イ. 記念プレゼント 65館

ウ. 地域による連携事業 3件 (49館)

3) 国際シンポジウム—ICOM京都大会に向けて—の開催

5月21日(日) 午後に京都国立博物館講堂において、日本博物館協会、ICOM日本委員会、ICOM京都大会2019組織委員会、京都国立博物館が主催、文部科学省、京都府、京都市が共催し、文化庁の助成を得て国際シンポジウムを開催し、約200名の参加者があった。

(2) ICOM 京都大会2019に関する事業

平成31年9月に開催される ICOM 京都大会2019に関する事業として以下の事柄を実施した。

1) 平成29年4月1日 ICOM 京都大会2019組織委員会京都準備室を京都国立博物館内に開設。日本博物館協会にて職員を採用し、組織委員会に派遣。(人件費は組織委員会負担、賃借料1,508,000円は日本博物館協会負担)。運営委員会(栗原祐司委員長)を中心に準備作業を本格化。

2) 平成29年5月18日～22日 ICOM 本部アクソイ会長以下来日。京都国立博物館にて京都大会関連打ち合わせ。国際シンポジウム、ワークショップ等を開催。国際入札を行い、PCO(大会運営会社)を株式会社コングレに決定した。

3) 平成29年6月5日～12日 ICOM 本部年次総会(パリ)に参加。京都大会のPRを実施した。

4) 平成29年9月27日～10月2日 The Best in Heritage 会議(クロアチア国ドブロブニク)に参加し、京都大会のPRを実施した。

- 5) 平成29年10月6日第3回 ICOM 京都大会2019組織委員会を京都国立博物館にて開催した。
- 6) 平成29年10月18日パリにて ICOM 本部と京都大会準備進捗状況に関する会議を実施した。
- 7) 平成29年11月14日～11月18日 ICOM 本部アクソイ会長来日。都内関連施設視察、ICOM 会員とのミーティング等を実施した。
- 8) 平成29年12月8日 パリにて開催の ICOM 役員会に運営委員長が出席し、京都大会準備進捗状況につき報告した。
- 9) 平成30年1月30日 組織委員会幹部会議を開催した。
- 10) 平成30年3月10日～11日 京都で運営委員会、国際委員会報告会、京都市内博物館とのミーティングを開催した。

(3) その他の国際交流事業

「博物館研究」に、国際動向・海外博物館だより等を掲載した。

6 その他の事業

(1) 地区博物館活動への支援

各地区単位の博物館の会議に共催者として、専務理事等の派遣及び情報提供等の支援を行った。

(2) 大規模災害関係支援事業の実施

1) 文化財防災ネットワーク推進事業への参画

国立文化財機構による文化財防災ネットワークの構成団体として、同事業の推進に向けた推進会議、有識者会議に参画するとともに、防災関連のシンポジウム等への出席等をとおして、博物館の防災に関する情報の共有に努めるとともに、その成果を日博協主催の研究協議会等で関係者と討議・検討を行った。

2) 大規模災害で被災した博物館・文化財への支援のための募集

東日本大震災の復興支援募金としての寄附募集の在り方を拡大し、その後に発生した熊本地震及び福岡県・大分県等における水害等、大規模災害が発生した際の博物館・文化財への被害対応・復興支援活動に使用することを目的とする寄付金を募集している。これらの支援金は、平成29年度末の時点で2,137,242円となっている。また、併せて、29年度も大規模災害等に係わる「被災博物館復興支援事業」への参加志望者の登録を実施している。

3) 文化財レスキュー事業への支援

平成26年度から継続している、岩手県立博物館を中核館として当協会を中心に展開する文化庁助成事業「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」を通し、岩手県陸前高田市立博物館の被災資料に対する保存修復活動について、

展覧会、ワークショップの開催等を支援した。特に今年度は、発災から7年目を迎えた区切りとして、岩手県立博物館において、被災地支援特別展とシンポジウムを開催した。

7 会議等

平成29年度は、次のように理事会及び評議員会等を開催した。

<理事会>

第15回理事会

日時 平成29年5月31日（水）10時30分～12時00分

場所 東京国立博物館平成館 第4会議室

- 議題
- 1 平成28年度事業報告及び収支決算について
 - 2 定時評議員会招集及び提出議案について
 - 3 平成29～30年度 理事候補者の推薦について
 - 4 参与の選任について
 - 5 報告事項
 - ① 新入会員・退会会員について
 - ② 職務執行状況の報告について
 - ③ ICOM京都大会2019について
 - ④ 平成30年 第66回全国博物館大会の開催について

第16回臨時理事会

日時 平成29年6月19日（月）16時00分～16時20分

場所 東京国立博物館平成館 第4会議室

議題 代表理事（会長）および専務理事の選定について

第17回臨時理事会

日時 平成29年9月7日（木）13時30分～15時00分

場所 東京国立博物館平成館 第2会議室

- 議題
- 1 平成29年度顕彰候補者の承認について（第1号議案）
 - 2 平成29年度棚橋賞受賞者の承認について（第2号議案）
 - 3 平成29年度博物館活動奨励賞受賞者の承認について（第3号議案）
 - 4 報告事項
 - ② 新入会員・退会会員について
 - ② 「これからの国宝・重文の保存と活用の在り方について」
文科大臣諮問に対する検討状況について
 - ③ 最近のICOM京都大会2019関連の動きについて
 - ④ 博物館における外国人対応に関する調査について
 - ⑤ 第65回全国博物館大会（大分）の概要について

第18回理事会

日時 平成30年3月7日(水) 14時00分～16時00分

場所 東京国立博物館平成館 第4会議室

- 議題
- 1 平成30年度事業計画及び収支予算案について (第1号議案)
 - 2 第66回全国博物館大会(東京大会)について (第2号議案)
 - 3 第67回全国博物館大会の開催方針について (第3号議案)
 - 4 2018年国際博物館の日シンポジウム開催について (第4号議案)
 - 5 第66回全国博物館大会における特別表彰について (第5号議案)
 - 6 国際観光旅客税の使途に係る事業アイデアの募集について(第6号議案)
 - 7 報告事項
 - ① 新入会員・退会会員について
 - ② 職務執行状況報告について
 - ③ ICOM京都大会に向けた今後の予定について
 - ④ 国際博物館の日のポスターについて
 - ⑤ 「博物館研究」読者アンケート結果について
 - ⑥ 博物館における外国人対応に関する調査について
 - ⑦ その他 「日本博物館協会理事会組織 今後のあり方について」

<評議員会>

第6回評議員会

日時 平成29年6月19日(月) 14時00分～15時30分

場所 東京国立博物館平成館 第4会議室

- 議題
- 1 平成28年度事業報告及び収支決算について(第1号議案)
 - 2 理事・監事・評議員の選任について(第2号議案)
 - 3 報告事項
 - ① 平成29年度事業計画及び収支予算について
 - ② ICOM京都大会2019について
 - ③ 平成30年 第66回全国博物館大会の開催について

<委員会>

日本博物館協会の運営を円滑に遂行するため、日本博物館協会支部長会(1回)、日本博物館協会参与会(1回)を開催した。

また、日本博物館協会の事業を実施するため、博物館研究企画編集委員会(1回)、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員会(1回)、博物館功労者選考委員会(1回)を開催した。